

人間の顔にはいろいろな器官がありますが、コミュニケーションに役立つものは、耳、口のほかに目があります。「目は口ほどに物を言う」という言葉があるように、目のコミュニケーションに果たす役割は馬鹿にできません。

その事実として、目がコミュニケーションに関係する多くの言葉があります。「目をつぶる」、「目をむく」、「目が据わる」、「目くじらを立てる」、「目を細める」、「目が笑う」、「目くばせ」、「目に角を立てる」、「目の色を変える」、「目は心の窓」、「目引き袖引き」、「目を三角にする」、「目を逸らす」、「目を無くす」、「目を丸くする」、「目を剥く」、「目から涙」などなど、あげてゆけば目が回ります。

最近、情報は溢れているのですが、人と人とのコミュニケーションは薄れているとよく言われます。原因はいろいろあると思います。

あるテレビ局のゴールデンタイムの番組で、黒メガネの男性が登場します。その男性は種々な場所を歩き回りながら、出会った人達や珍しい場所などをテレビに向かって話しています。しかし、彼が嬉しがっているのか、不快なのか、それほど何も感動していないのか、がっかりしているのか、などの状況は黒メガネのために視聴者に十分伝わってきません。目の表情が隠されているからです。出演者と視聴者に「壁」のあるような番組が現代的なのでしょうか。コミュニケーションを商売とするこの放送局の考えがよく分かりません。

メディアの社会的存在理由は、良質の情報を伝えることと、人と人のコミュニケーションをつくることにあると思います。希薄化する人間関係が誘因になった事件が、現在、後を絶ちません。メディアに携わる人達は、メディアの社会での存在理由や責任を真剣に考えているのでしょうか。視聴率が高いことが放映理由でしょうか。

数字の魔力に幻惑されているとしたら悲しいことです。